

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に要する経費(周辺整備等)	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	4	2	1	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	中川 聡			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	廃棄物処理施設周辺の環境整備に係る協定の履行について進捗状況を点検し、組合及び構成市等と協議を進める。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	廃棄物処理施設周辺の環境整備に係る協定の履行について、進捗状況を点検し組合及び構成市等と協議を進める。
②①に基づく取り組み結果	協定の履行について、進捗状況を点検し、組合及び構成市と協議を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①廃棄物処理施設の周辺地域 ②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	廃棄物処理施設周辺環境を確保する。
②事務事業の概要	廃棄物処理施設周辺の住民に対する環境整備を目的として、還元施設の維持管理や周辺環境の改善に必要な経費の負担を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	廃棄物処理施設を受け入れている地域の環境向上に向けた取り組みについて、柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合で廃棄物処理施設周辺整備基本計画及び実施計画が策定された。周辺整備事業を早期に実現し、環境向上を図ることが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合による「さわやかプラザ軽井沢」等の維持管理経費及び施設南側斜面緑地の保全や植栽維持管理等に負担金を支出した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i 余熱利用還元施設利用者数	319	318	285	千人	業務取得
	ii 資源化率	17.8	18.8	19.8	%	業務取得
	iii 最終処分率	8.1	8.1	8.1	%	業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算	
事業費(千円)	132,430	144,563	金額(千円)	内容	141,671	
国支出金(千円)			144,563	周辺整備費		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	132,430	144,563			141,671	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	廃棄物処理施設周辺整備については、構成市等との調整を図りながら着実に進めていく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	運営の効率化について、たえず検証していくため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	令和元年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H30からの繰越
		H30⇒R1繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由			流用・充当		
	令和2年度への繰越額(単位:千円)				

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	ごみ減量業務に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	4	2	2	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	中川 聡			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	生ごみ処理容器等購入補助事業に関しては、昨年度から引き続き広報・ごみアプリでの案内を行う外、自治会の班回覧やイベントでのチラシの配布等方法や回数を増やしていく。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	ごみアプリ等を流用し、さらに効率的効果的にPRを行う。
②①に基づく取り組み結果	本年度は、生ごみ処理容器等購入費補助事業に関して、市民の目に触れる機会を増やすために、広報・ごみアプリへの案内を増やした。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民	意図(対象をどうするのか)	廃棄物の減量を目指し、循環型社会の構築を図る。
②事務事業の概要	有価物回収運動奨励金や生ごみ処理容器等購入費補助金等の支払いを行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	有価物回収及び生ごみ処理機の補助事業について、全体的に減少傾向にあるが、循環型社会の構築に向けて今後も市民の意識高揚を図っていく必要がある。また、買い物袋持参推進運動に関しては、令和2年7月から全国でレジ袋有料化が義務化されることに伴い、当運動の目的であるレジ袋の削減が期待されることから、令和元年度をもって、当運動を廃止することとなった。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	市内小学校9校のPTA(出す側)と有価物資源組合(回収側)による有価物の集団回収を行い、市民レベルの存続拡大を図るため、両者に対して品目、回収量に応じて奨励金を交付した。また、生ごみ処理容器等の購入者に、購入費用の一部について補助金を交付した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i 有価物回収量	901	839	805	t	業務取得
	ii 買い物袋の持参推進運動交換件数	12,499	11,438	2,504	件	業務取得
	iii 生ごみ処理容器補助件数	15	27	36	件	業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算	
事業費(千円)	11,301	10,217	金額(千円)	内容	12,214	
	国支出金(千円)		9,946	有価物回収運動		
	県支出金(千円)		271	生ごみ処理容器助		
	市債その他(千円)					
	一般財源(千円)	11,301	10,217		12,214	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	有価物の回収量、買い物袋の交換件数及び生ごみ処理容器等の補助件数について、全体的に減少傾向にある。また、買い物袋持参推進運動は、令和元年度をもって廃止となった。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民に直接働きかけることでごみの減量化につながる施策であるため、今後もPR活動等を行う必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	令和元年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H30からの繰越
		H30⇒R1繰越			
③達成状況	0	補正		0	現年分
		流用・充当			
④未完了・非着手の理由	令和2年度への繰越額(単位:千円)				

生ごみ処理機

広報への掲載 2回 (6/15、1/15)

ごみアプリ 0回

自治会班回覧 2回 (7/25、9/25)

イベントでのチラシの配布 2回 (環境フェア、リサイクルフェア)

買い物袋交換件数

ごみ袋交換件数 10,588件

買い物袋交換件数 845件

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に要する経費(ごみ処理等)	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	2	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	中川 聡			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	「施設長寿命化総合計画」に基づき、組合、構成市と共に事業が進むよう協議・調整を進める。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	長寿命化工事が開始されたが、今後も組合、構成市と共に改修工事が円滑に進むよう協議・調整を進める。
②①に基づく取り組み結果	協議・調整の結果、施設長寿命化総合計画を策定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①一般廃棄物(ごみ)を排出する市民等 ②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	①「資源になるもの」等の再資源化による最終処分量の減量を図る。 ②ごみの適正処理を図る。
②事務事業の概要	構成団体の地区内(柏市沼南地区・鎌ヶ谷市全域)で排出されたごみを適正処理するため、建設施設償還金及び施設運転管理等の経費を負担する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	ごみ焼却施設の老朽化による延命化対策が必要となる。最終処分場確保の逼迫及び資源の有効活用のため循環型社会形成の取り組みが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	ごみ処理費用(ごみ処理費・共同化処理費及びごみ処理施設償還)に係る負担金を支出した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i 再資源化量	5,427	5,751	5,460	t	業務取得
	ii 最終処分量	2,467	2,492	2,508	t	業務取得
	iii					
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算	
事業費(千円)	1,293,570	1,237,669	金額(千円)	内容	1,241,933	
			559,472	ごみ処理費		
			589,701	共同化処理費		
			88,496	ごみ処理施設償還		
一般財源(千円)	1,293,570	1,237,669			1,241,933	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	施設の老朽化による維持管理費の増加が見込まれる。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	老朽化した施設の安定稼働を図るための的確な維持管理、運営を行うとともに延命化が必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	令和元年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H30からの繰越
		H30⇒R1繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由			流用・充当		
	令和2年度への繰越額(単位:千円)				